

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21135	
事業名	中央図書館運営管理費						
評価担当課	所属名	教)中央図書館 運営企画課					
	課長名	中澤 優	担当者名	平 麻美	電話番号	011-512-7330	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	市民の読書活動や学習活動に寄与する。				
		長期	市民の読書活動や学習活動に寄与する。				
	取組内容	札幌市の図書館施設の中心となる中央図書館の事業運営及び施設維持管理を行い、図書資料の貸出をはじめ、収集・保存・参考調査などを行うとともに、道内外の公共図書館・大学図書館等との間で図書資料の相互貸借を行い、積極的な協力運営を実施する。さらに、市内各地区図書館、えほん図書館、図書・情報館、区民センター、地区センター図書室、大通カウンターなどの、図書施設の運営面、サービス面の統括を行う。					
	実施結果	図書資料の貸出・予約受付・返却等の図書館運営の基本業務や図書資料の充実のほか、資料レファレンス対応やインターネットによる蔵書検索及び貸出予約の運用を行った。また、幅広い市民への適切な図書館サービスの提供が行われるよう、市内図書施設の統括を行った。					
事業実施における工夫点	一部施設を除く各図書施設をオンラインで結び、所蔵する資料の市内全域に渡るサービス網を確保している。						
対象者	市民、市内に通勤・通学している他市町村民			開始	0 年度	終了	0 年度
関連法令・条例・要綱等	図書館法・札幌市図書館条例・札幌市図書館条例施行規則						
他都市の状況	他都市においても同様の事業を実施している。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	453,069	443,006	432,173	456,408	
うち特定財源	10,604	7,225	1,869	5,725	
人工	30.0	29.0	29.0	29.0	
人件費	216,000	208,800	208,800	208,800	
計(事業費+人件費)	669,069	651,806	640,973	665,208	
事業費の内訳	令和3年度決算	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館運営に係る委託業務150,867千円 会計年度任用職員に係る費用147,013千円 中央図書館運営に係る光熱水費15,986千円 中央図書館運営に係る燃料費12,490千円 その他中央図書館運営に係る費用105,817千円 			
	令和4年度予算	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館運営に係る委託業務180,594千円 会計年度任用職員に係る費用145,055千円 中央図書館運営に係る光熱水費21,411千円 中央図書館運営に係る燃料費12,947千円 その他中央図書館運営に係る費用96,401千円 			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	蔵書冊数(冊)		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	900,000	900000	901070	900000
活動指標2	指標名	行事実施回数(回)		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	50	43	13	17
成果指標1	指標名	来館者数(人) ※大通カウンター除く		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	625,000	546000	303732	404000
成果指標2	指標名	貸出冊数(冊)		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	983,330	860000	873441	880000
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	平成29年度の大規模改修ののち、来館者数に関しては平成30年度に延べ70万人超の市民が来館したが、令和3年度については令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館等のため減少に転じ、貸出冊数においても、同様となった。成果を計る数値目標については、来館者数は届かなかったものの、貸出冊数は届いており、市民の読書活動や学習活動に寄与している。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	他の政令市と比較すると、図書館全体の蔵書冊数は上位であるが、人口一人当たりの蔵書冊数では下位である。資料購入費は削減が続いており、政令市では最下位に近い。近年の中央図書館蔵書の内訳では全体の約1.8%が新刊に置き換わっているが、購入した図書はわずか約0.8%となっている。他方、当事業による運営施設を含めたサービス拠点の数は政令市の中でも多く、市内におけるサービス網確保については一定の効果が挙げられている。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	人件費、施設維持管理費、システム運用費、光熱水費等の固定費が年々上昇している中、予算の効率的な執行をすることで、図書資料の充実化に取り組んでいる。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	例年実施している利用者アンケート(令和3年10月実施)において、中央図書館のサービス内容については回答者の93.8%が満足していると回答しており、前年度実施時より微減しているものの、引き続き利用者のニーズに応えている。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映			
今後の改善点	「身近な学びの施設」「知の拠点」として、市民が生活や活動に役立つ情報を容易に適切に得ることができるよう、市民目線でのサービス充実が必要である。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での図書館運営について、物理的な制約はあるものの、それによるサービスの低下を最小限に抑え、引き続き「新生活様式」に則した運営を行う。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響でサービスを提供できない期間があったものの、多くの市民に利用されており、市民の読書活動や学習活動に寄与しているといえるため。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 中央図書館事業運営及び施設維持管理、また、市内図書館施設の運営面、サービス面の統括。		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 市民の読書・生涯学習意欲に応えるためにも図書館サービスの量的・質的拡充を図るための図書購入予算の確保が重要である。		見直し効果額 0 千円